



岩国での経験を糧に

五輪メダリストを目指す

Vol.79

加納 虹輝さん
(麻里布町在住)

岩国工業高校3年生。今夏、プレッシャーに打ち勝ち、どうしても勝ちたかったインターハイ個人エペで優勝。技術的にも精神的にも成長し、世界を舞台に戦う。



▼高校のフェンシング場で練習する加納さん



オリンピックの表彰台に立つことを夢見て、故郷を離れて岩国でフェンシングに打ち込む少年がいます。岩国工業高校3年生の加納虹輝さんです。愛知県出身の加納さんは、小学6年生でフェンシングを始めました。北京オリンピックで銀メダルを取った太田雄貴選手の姿に憧れ「フェンシングを始めたい」と両親に伝えたそうです。

加納さんの気持ちに応えた両親は、家から車で1時間かかるフェンシングクラブへ送迎を始めました。

両親の協力を得てフェンシングを始めました加納さん。すぐにその魅力に夢中になり練習に励みますが、試合ではなかなか良い成績を残せません。コーチに頼み込み練習を週1回から3回に増やして臨んだ中学最後の全国大会でも、プレッシャーに負けて1回

戦で敗退してしまいます。精神的な弱さを克服したいと考えていた加納さんは、高校進学に当たって大きな決断をします。地元の強豪校ではなく、岩国工業高校に進学したのです。「親元を離れ、自分で身の回りのことをすることで、精神的に強くなれると思った」と話す加納さん。最初は反対

話す加納さん。最初は反対

していた母親も加納さんの熱意に、最後は応援して送り出してくれました。加納さんは岩国工業高校で素晴らしい指導者と仲間恵まれ、厳しい練習を積むことで、荒削りだった才能を徐々に開花させていきます。

1年生の冬に年代別日本代表選考会で好成績を収めて代表に選ばれると、以降は代表に定着。海外の大会を転戦し、ジュニアワールドカップで日本初のメダルを獲得するなど、活躍の舞台は一気に世界にまで広がりました。

「海外の選手はレベルが高く、その中で戦ってきた経験はとても大きい。精神的に強くなれた」と話す加納さんに今後の目標を聞きました。

「まずはジュニアの世界大会で勝ちたいです。その先は、2020年の東京オリンピック、2024年のオリンピックに出場し、金メダルを取りたいです」

※フェンシングはヨーロッパ発祥のスポーツ。フルーレ、エペ、サーブルの3種類の武器があり、これらがそのまま種目名となっている



▲H27年インターハイ団体フルーレ準優勝。ともに戦った監督、仲間と



▲ウズベキスタンで行われた2015世界ジュニア選手権を戦う加納さん